

各位

2023年4月7日

株式会社キノファーマ

ヒトパピローマウイルス感染症である尋常性疣贅(ゆうぜい)に対する第2相臨床試験を開始

— ヒトパピローマウイルスに対する新たな抗ウイルス薬開発 —

株式会社キノファーマ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：黒石眞史、以下「キノファーマ」）は、岩城製薬株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：西村泰輔、以下「岩城製薬」）と共同開発中の尋常性疣贅治療薬（以下、本剤）のヒトでの有効性を確認する第2相臨床試験の治験届を独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)に提出致しました。

開発の経緯

キノファーマと岩城製薬は、キノファーマが保有するヒトパピローマウイルス(HPV)に対する新規抗ウイルス剤をもとに2021年1月より共同で軟膏剤開発を進めてまいりました。その成果をもとに、2022年8月に尋常性疣贅を適応症とする臨床開発を進めるため、共同開発・商業化契約を締結いたしました。本剤を用いた動物ならびにヒトでの安全性を確認し、この度、尋常性疣贅に対する有効性を確認するための第2相臨床試験を開始することを決定し、本日、治験届を独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)に提出致しました。

本剤について

キノファーマが創生したヒト宿主因子をターゲットとする新しいコンセプトのヒトパピローマウイルス(HPV)に対する抗ウイルス薬をもとに、キノファーマと岩城製薬との共同で皮膚・粘膜等へのHPV感染症への最適な投与方法である軟膏剤を開発し、特許出願をいたしました。

ヒトパピローマウイルス(HPV)とは

日本語ではヒト乳頭腫ウイルスとも言われ、皮膚などに感染すると乳頭のように盛り上がった腫瘍(いぼ)を形成することからこの名前がついています。HPVには100種類以上の型(タイプ)があり、がん化する型と、良性の腫瘍になる型があり、その感染により皮膚(尋常性疣贅)および肛門性器(尖圭コンジローマ、肛門がん)、生殖器(子宮頸がん)および上部気道消化管(中咽頭がん他)などに対する多くの疾患の原因となることが知られています。

尋常性疣贅(ゆうぜい)について

尋常性疣贅は、一般に「いぼ」と呼ばれていますが、HPVの感染によって引き起こされる皮膚の小さな増殖性病変です。HPVは皮膚の小さな傷から入り込み、表皮の基底層にある細胞に感染します。感染細胞は、細胞分裂が活発になり「いぼ」が形成されます。治療法としては、一般的に液体窒素を用いた凍結凝固療法が行われますが、繰り返しの施術が必要であることや治療に伴う痛みなどの課題があります。原因であるHPVに対する抗ウイルス効果を有する承認薬はありません。尋常性疣贅は比較的小児に好発しますが、どの年齢層にも発症し、想定有病率は3.4%（2021年日本社会保険診療行為調査データよりキノファーマにて推計）です。

岩城製薬について

岩城製薬の親会社となるアステナHDの医薬事業及びファインケミカル事業では、人々の健康に貢献するとともに製薬業界に資するため、医薬品の研究開発から製造・販売に至るまでのバリューチェーンを広く手掛けております。岩城製薬では、医療用外用剤の製剤開発、製造ならびに皮膚科の医薬品を中心とした品揃えで、皮膚疾患にお困りの患者様へソリューションを提供しております。

キノファーマについて

キノファーマは、京都大学等との産学連携で医薬品の研究開発に取り組んでいる大学発ベンチャーです。宿主因子をターゲットとしウイルスの増殖を抑制する新しいコンセプトの抗ウイルス薬開発に取り組んでいます。子宮頸がんの前がん病態である子宮頸部上皮内腫瘍や尋常性疣贅・尖圭コンジローマなどの、HPV感染を起因とする各種疾患に対し治療薬を開発していることに加え、致死性ウイルス

感染症や次世代パンデミック・ウイルス感染症への治療薬開発にも取り組んでいます。

【本件に関するお問合せ先】
株式会社キノファーマ 経営管理部
電話：03-6264-9604 メールアドレス：info@kinopharma.com